

平成19年度岩手県立総合教育センター

# 中学校社会科における社会的な見方や考え方を 育成する指導と評価の在り方に関する研究

- 「関心・意欲・態度」「思考・判断」を見取る

評価プランの作成と活用をとおして -

(第1報)

研究協力校

花巻市立矢沢中学校

岩手県立総合教育センター  
教科領域教育室  
川村文孝

## 目 次

研究目的.....	1
研究仮説.....	1
研究の年次計画.....	1
本年度の研究内容と方法.....	1
1 目標.....	1
2 内容と方法.....	2
3 研究協力校.....	2
研究結果の分析と考察.....	2
1 中学校社会科における社会的な見方や考え方を育成する指導と評価の在り方に関する基本構想... 2	
(1) 中学校社会科における社会的な見方や考え方に関する基本的な考え方.....	2
(2) 「関心・意欲・態度」「思考・判断」を見取る評価プランを作成する意義.....	2
(3) 「関心・意欲・態度」「思考・判断」を見取る評価プランについて.....	3
(4) 中学校社会科における社会的な見方や考え方を育成する指導と評価の在り方に関する基本構 想図.....	7
2 基本構想に基づく手だての試案について.....	8
(1) 「関心・意欲・態度」「思考・判断」を見取る評価プランを用いた指導に関する試案.....	8
(2) 試案の「計画」「準備」段階における手だての具体例.....	9
研究のまとめ.....	12
1 研究の成果.....	12
2 今後の課題.....	12

〔おわりに〕

【引用文献】

【参考文献】

## 研究目的

中学校社会科では、社会的事象に対する関心を高め、資料を適切に収集、選択、処理、活用し、それらの資料に基づいて多面的・多角的に考察、判断する態度を生徒に身に付けさせることが求められている。このような社会科のねらいである社会的な見方や考え方は、「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能・表現」「知識・理解」の四観点から育成することが大切である。

しかし、「知識・理解」や「技能・表現」など量的側面が強い学力に比較して、「関心・意欲・態度」や「思考・判断」など質的側面が強い学力は、実現状況を正しく見取り、育成することが難しいといわれている。その要因として、「関心・意欲・態度」については、どのような学習場面をとらえ、何をもって実現状況を評価すればよいのかが曖昧になっていることが挙げられる。また「思考・判断」については、生徒に身に付けさせたい力を、分野をとおして系統的、継続的に育てていく視点が明らかになっていないことが挙げられる。その結果、社会的な見方や考え方を四観点から育成することが困難になっている。

このような状況を改善するためには、社会的な見方や考え方との関連から「関心・意欲・態度」「思考・判断」を見取るための視点を明らかにし、学習活動及び評価を位置付けた評価プランを作成し、活用する必要がある。

そこで、本研究は、評価プランの作成と活用をとおして、「関心・意欲・態度」「思考・判断」の指導と評価の在り方について明らかにし、社会的な見方や考え方の育成を目指した中学校社会科の学習指導の改善に役立てようとするものである。

## 研究仮説

中学校社会科において、社会的な見方や考え方の育成との関連から「関心・意欲・態度」「思考・判断」を見取るための視点を明らかにし、指導と評価の計画を立て、実現状況に応じた指導を行う評価プランを活用すれば、社会的な見方や考え方を育成することができるであろう。

## 研究の年次計画

この研究は、平成19年度から20年度にわたる2年次研究である。

### 第1年次（平成19年度）

中学校社会科における社会的な見方や考え方を育成する指導と評価についての基本的な考え方の検討及び基本構想を立案し、「関心・意欲・態度」「思考・判断」を見取る評価プランの作成、評価プランに基づく授業実践をとおしてその改善点を明らかにする。

### 第2年次（平成20年度）

第1年次に明らかにした「関心・意欲・態度」「思考・判断」を見取る評価プランの改善点を基に授業実践を行い、中学校社会科における社会的な見方や考え方を育成する指導と評価の在り方についてまとめる。

## 本年度の研究内容と方法

### 1 目標

中学校社会科における社会的な見方や考え方を育成する指導と評価についての基本的な考え方の検討及び基本構想を立案し、「関心・意欲・態度」「思考・判断」を見取る評価プランの作成、評価プランに基づく授業実践をとおしてその改善点を明らかにする。

## 2 内容与方法

- (1) 中学校社会科における社会的な見方や考え方を育成する指導と評価についての基本的な考え方の検討及び基本構想の立案（文献法）
- (2) 「関心・意欲・態度」「思考・判断」を見取る評価プランの作成（文献法）
- (3) 「関心・意欲・態度」「思考・判断」を見取る評価プランに基づく授業実践計画の作成  
(文献法)
- (4) 「関心・意欲・態度」「思考・判断」を見取る評価プランに基づく授業実践（授業実践）
- (5) 「関心・意欲・態度」「思考・判断」を見取る評価プランに基づく授業実践結果の分析と考察  
(質問紙法)
- (6) 「関心・意欲・態度」「思考・判断」を見取る評価プランの改善点の明確化

## 3 研究協力校

花巻市立矢沢中学校

### 研究結果の分析と考察

#### 1 中学校社会科における社会的な見方や考え方を育成する指導と評価の在り方に関する基本構想

##### (1) 中学校社会科における社会的な見方や考え方に関する基本的な考え方

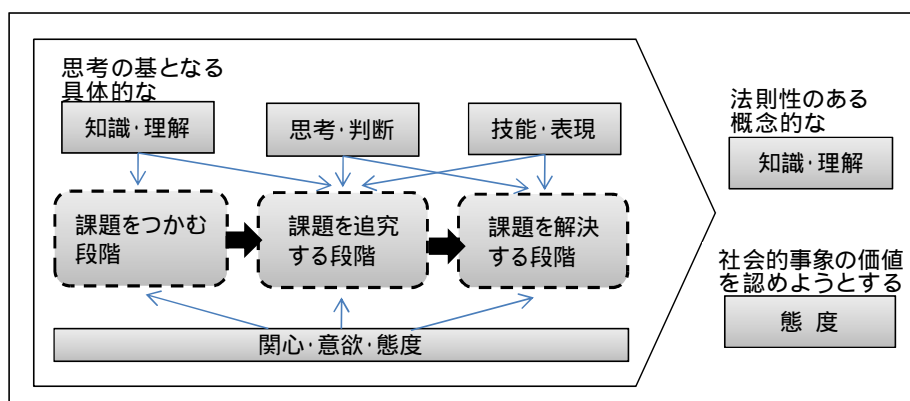
中学校学習指導要領社会の目標は大きく三つの部分から構成されている。その第一は「広い視野に立って、社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し」の部分であり、社会科の学習が目指している見方や考え方を示している。

この社会的な見方や考え方に関する部分は、次のように解釈できる。「社会に対する関心を高め」とは、生徒自ら社会的事象を見出し、それを基に課題を設定し追究することである。「諸資料に基づいて」とは、社会的事象はそれをとらえる観点によって大きく見方が変化することから、一面的な考察に陥らないように適切に資料を収集、選択、処理、活用することを意味している。「多面的・多角的に考察し」とは、社会的事象のもつ意味や背景、因果関係などを、様々な角度から他の社会的事象と比較、関連、総合させながら追究し、空間的な広がりや時間的経緯の中で社会的の意味や価値をつかむことを意味している。

すなわち社会的な見方や考え方に必要な力は、資料から事実をとらえる力、事実と事実の関係をとらえる力、事実や関係から社会的事象に対する価値をとらえる力であると言える。

##### (2) 「関心・意欲・態度」「思考・判断」を見取る評価プランを作成する意義

「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能・表現」「知識・理解」の四観点は、現行学習指導要領に示す各教科の目標や内容を踏まえ、自ら学ぶ意欲や思考力、判断力、表現力などの資質や能力の育成に重点を置くことが明確になるように構成したものである。つまり、これら四観点は、評価の結果によって後の指導を改善し、各教科の目標とする資質や能力の育



【図1】社会的な見方や考え方の育成過程と四観点のかかわり

成を図るための観点ということである。先に述べた社会的な見方や考え方は、課題をつかみ、それを追究し、解決する過程で育成される。課題をつかむ段階では課題に対する「関心」や思考の基となる具体的な「知識」が重視される。追究する段階から解決する段階にかけては、資料からの事実の読み取りや「知識」の習得などとおして社会的な因果関係などを考察する「思考・判断」や、資料を活用したり表現したりする「技能・表現」が重視される。そして学習した結果として、法則性のある概念的な「知識・理解」が身に付き、社会的な価値を認めようとする「態度」につながっていく。「関心・意欲・態度」の高まりは「思考・判断」「技能・表現」「知識・理解」の高まりと密接にかかわり、学習全般にわたって社会的な見方や考え方の育成を支えている。

しかし、国立教育政策研究所の「学習評価の工夫改善に関する調査研究」(2004)にも見られるように、「知識・理解」や「技能・表現」など量的側面が強い学力に比較して、「関心・意欲・態度」や「思考・判断」など質的側面が強い学力は、実現状況を正しく見取り、育成することが難しいと言われている。本来四観点をとおした指導と評価から育成すべき社会的な見方や考え方が、見取りや実現状況に応じた指導においてバランスを欠いた状態になっている。

以上のことから、社会的な見方や考え方を四観点から育成するためには、共に質的側面が強い「関心・意欲・態度」と「思考・判断」を、何をもってどのように評価し指導に生かすのかを明らかにした評価プランを作成する必要がある。

### (3) 「関心・意欲・態度」「思考・判断」を見取る評価プランについて

#### ア 「関心・意欲・態度」「思考・判断」を見取る評価プランの定義

「関心・意欲・態度」「思考・判断」を見取る評価プランとは、「関心・意欲・態度」「思考・判断」の指導と評価に関する計画を立て、そのための手だてを準備し、指導と評価を行い、見取った実現状況に応じた指導及び計画の見直しを行う一連の流れである。

#### イ 「関心・意欲・態度」「思考・判断」を見取る評価プランの内容について

##### (ア) 「関心・意欲・態度」の目標の明確化及び評価について

「関心・意欲・態度」の評価は、教科の内容に対する「関心・意欲・態度」の評価であり、忘れ物や私語の有無、授業態度、挙手や発言の回数をチェックすることではない。

教科の内容に対する「関心・意欲・態度」は、その変容を見取る際に、学習において身に付けた知識や理解の内容と切り離すことはできず、認知面と結び付いた変容を見取る必要がある。この「関心・意欲・態度」の変容の見取りについて、ブルームら(1971)が明らかにした「教育目標の領域区分」は示唆を与えている。ブルームらは、教育目標を大きく「認知的領域」「情意的領域」「精神運動領域」の三領域に区分した。このうち情意的領域が「関心・意欲・態度」に相当する。情意的領域はさらに「受容」「反応」「価値付け」「価値の体制化」「価値による人格化」という五つのカテゴリーに細分化されている。これらのカテゴリーは、低次から高次に至る連続した目標体系であるとされる。なお、長瀬(2003)は、「価値による人格化」は人格形成にかかわる概念であるため、義務教育段階よりも高次の情意的領域のカテゴリーに位置付けるのが妥当であると指摘している。

これらの情意的領域におけるカテゴリーの考え方に沿って、社会科における「関心・意欲・態度」の目標を明確化する。その際、「関心・意欲・態度」が認知面と結び付き、社会的な見方や考え方の育成を支えていることを考慮すると、情意的領域におけるカテゴリーと社会的な見方や考え方の育成とのかかわりに着目する必要がある。情意的領域におけるカテゴリーと社会的な見方や考え方の育成の過程を対応させ、次頁【表1】のように整理する。

【表1】情意的領域のカテゴリーと社会的な見方や考え方の育成過程の対応

情意的領域におけるカテゴリー	社会的な見方や考え方の育成の過程
「受容」 注意と気付きの獲得段階	学習をとおして今まで無意識であった事象に気付きながら知識が広がっていく段階
「反応」 興味と関心の深まりの段階	事象に対する気付きが深まり，事象間の結び付きや価値などを見出す段階
「価値付け」 積極的意欲の高まりの段階	
「価値の体制化」 実践的態度の高まりの段階	知識や価値に対する考え方が身に付き，情意面の高まりが表面化し，態度化につながっていく段階
「価値による人格化」 普遍的態度の形成段階	

以上の情意的領域におけるカテゴリーと社会的な見方や考え方の育成の過程のかかわりから，本研究では，「関心・意欲・態度」の変容を見取る視点を次の三点ととらえる。

<p>単元の指導目標の内容に関する気付きが見られるようになったか</p> <p>事象間の結び付きや構造，価値に関する気付きが見られるようになったか</p> <p>具体的な関心や新たな疑問，生活との結び付きに関する気付きが見られるようになったか</p>
---

これらの変容を見取る評価方法としては，認知面と結び付いた「関心・意欲・態度」が外に表れる行動に着目するという考え方が成り立つ。しかし観察法のみで全員の行動を毎時間評価するのは不可能に近い。また，生徒個々の性格の違いによっても，意欲があるから行動に結び付くとはいえない場面が多々考えられる。このことから，生徒一人一人の行動として表れない面をできるだけ見取るために，「関心・意欲・態度」にかかわる生徒の記述内容から見取る評価方法を用いる必要があると言える。

そこで本研究では，単元のはじめや単位時間ごと，単元末で学習を振り返る記述活動を行い，記入内容に表れた「関心・意欲・態度」の変容を見取る方法を用いる。この活動を行う上で留意しなければならないのが，生徒自身が自分の学習状況の把握が十分ではなく，どのような学び方をすればよいのかよく分かっていないという状況である(国立教育政策研究所 2004)。この点について堀(2006)は，学習前，学習中，学習後の流れの中で自己の変容を生徒自身にとらえさせることが，自分のよさを生かし，目標をもって学習しようとする意欲につながると指摘している。

ある学習に意欲的に取り組んだとして，それがその後どのように継続していったのか，また，ある学習には意欲的でなかったとしても，その後どのように意欲を高めていったかなど，ある程度の期間の変容をとらえる必要がある。単位時間ごとにその学習内容に関連して「どんなことに関心をもったのか」「どんな新たな疑問が生じたのか」の見取りを続けながら，単元全体をとおして「関心・意欲・態度」の変容を先に述べた三つの視点から見取り，生徒自身も自己の変容をとらえることができるシートを作成する。このシートを「振り返りシート」と呼ぶこととする。

(1) 「思考・判断」の目標の明確化及び評価について

岩田(1984)は、社会科における思考が【表2】のような「事実判断」「推理」「価値判断」の三層から成り立つとしている。

【表2】社会科における思考(岩田 1984)

思考	内容
価値判断	客観的な知識を根拠に価値判断し、選択する
推理	事象と事象の関係付けや社会の意味・特質を解釈する
事実判断	単純な想起を行うか、資料を観察したり読み取ったりする

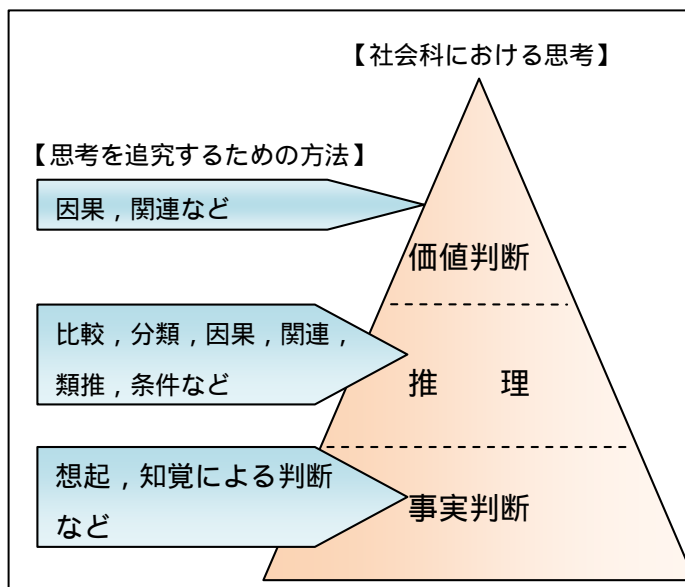
また、鈴木(2005)は、このような社会科における思考を形成するためには、思考を追究するための方法を身に付ける必要があると指摘している。そこで「事実判断」「推理」「価値判断」のそれぞれにおいて、どのような思考を追究するための方法が必要なのか以下のように整理する。

「事実判断」において、「いつ、どこで、何が」などという知識を問われて答えるときに必要な思考を追究するための方法は、単純な事象の想起か、知覚による判断である。

「推理」においては、事象と事象の関係付けや社会の意味・特質を解釈するために必要な思考を追究するための方法として、比較、分類、因果、関連、類推、条件などが挙げられる。

「価値判断」においては、客観的な事実を根拠にして価値判断を行うために思考を追究するための方法として、因果や関連といった自分の経験に結び付けて意見をもつ方法が挙げられる。

このように「思考・判断」とは、単元を超えて繰り返し現れる思考を追究するための方法や概念を使いこなし、「事実判断」「推理」「価値判断」を行う力を指していると考えられる。



【図2】思考を追究するための方法のとらえ

中学校指導要録の改善通知(2001)には、「社会的な思考・判断」の趣旨として「社会的事象から課題を見出し、社会的事象の意義や特色、相互の関連を多面的・多角的に考察し、社会の変化を踏まえ公正に判断する」と示されている。ここでは、社会的事象の違いや共通点を比較し、意義や特色を明らかにすること、社会の事物、事象間の関連をとらえ、多面的・多角的に考察、判断することの重要性が示されている。このことから、中学校社会科において、思考を追究するための方法の中で最も基本的なものを「比較・分類」と「因果・関連」ととらえた。「比較・分類」とは、複数の社会的事象を合理的な基準に基づいて分類したり、共通点や相違点を比較したりすることである。「因果・関連」とは、社会的事象相互の関連性や因果関係を認識することである。

そこで本研究においては、「思考・判断」の評価は、「比較・分類」と「因果・関連」という思考を追究するための方法を使いこなす力が身に付いているかどうかを見取ることとする。

評価方法としては、「比較・分類」や「因果・関連」を視覚化して示す関係図などを取り入れた

学習プリントの記入内容から見取る方法と、評価問題によって見取る方法を用いる。評価問題に関しては、その作成において次のような課題が挙げられる。授業の段階では「思考・判断」を評価する問題として適切と思われたものが、単元の学習をとおして知識として定着し、評価問題に取り組む段階では「思考・判断」を評価するのに適切とはいえなくなる場合がある。このことから、知識として定着した「思考・判断」を直接問う問題ではなく、既習知識を基にして根拠となる資料を活用しながら問題を解決していくための「思考・判断」を行わせる評価問題を工夫する必要がある。

#### (ウ) 実現状況に応じた指導について

「関心・意欲・態度」と「思考・判断」は、短い期間で育成することが難しい。ともに以下のような手だてを取り、長期的に育成する必要がある。

「関心・意欲・態度」の実現状況に応じた指導については、「関心・意欲・態度」が「思考・判断」「技能・表現」「知識・理解」の高まりと密接にかかわることから、他の三観点の見取りと指導が大切にする必要がある。つまり社会的な見方や考え方の育成過程のどの段階でつまづいているのか見取り、基本となる知識や課題を追究する学び方を確認したり、後述する「思考・判断」を補ったりする指導が必要である。また、学習プリントの記入内容や振り返りシートの授業後の記入内容に対して、学習目標に迫る見方や考え方を評価し、素朴な「関心」や「疑問」から広がる考え方の方向性をコメントすることにより次時の学習に対する意欲を高める。コメントは常に単元構成を考え、次の学習につながるようなコメントを繰り返すことによって、単元の目標に沿った「関心・意欲・態度」を育成する。単元末においては、振り返りシートの単元初発の記入内容と単元末の記入内容を比較させ、その変容を生徒自身がどう思うのか記入させることによって自分の成長や学ぶ意味を感じさせ、以後の学習に対する意欲付けを図る。

「思考・判断」の実現状況に応じた指導については、次のような段階を踏んだ視点で見取りと指導を行い、「比較・分類」や「因果・関連」の視点に気付かせる必要がある。学習課題をとらえているか 資料の読み取り方(学び方)が身に付いているか 思考の基となる知識が身に付いているか 「比較・分類」や「因果・関連」の視点をもっているか。このような段階に応じて、既習内容の知識や学び方を確認したり、指導者が具体的に「比較・分類」や「因果・関連」の視点を示したりして思考を追及するための方法を身に付けさせていくことが必要である。また、グループでの意見交流において他者の考え方を聞くことによって自分の考えを補い、見直させる指導を単元に位置付けることによって考えの根拠の質を深めさせ、「思考・判断」の定着を図る。

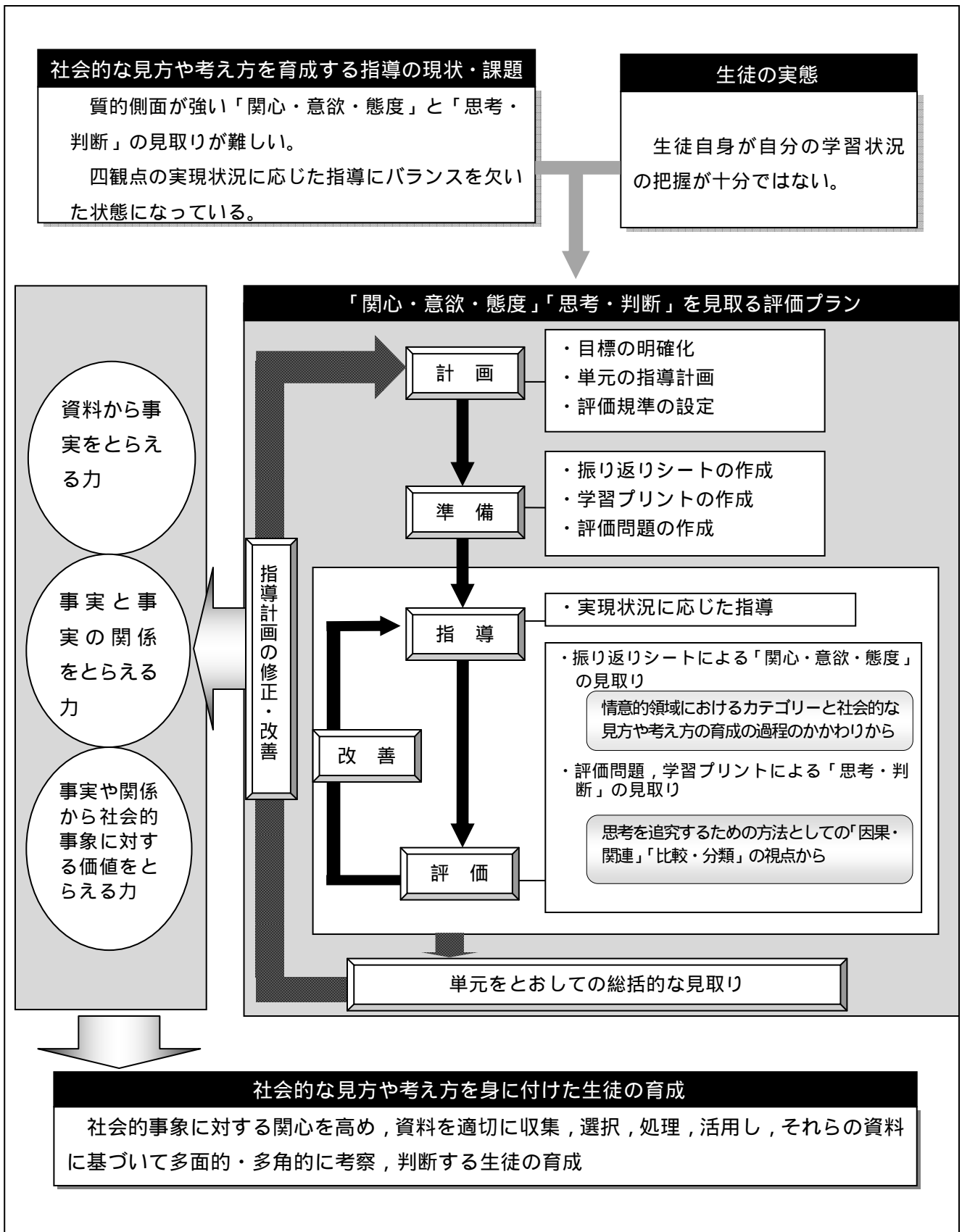
#### (I) 単元をとおしての総括的な見取りについて

「関心・意欲・態度」の単元の学習の総括については、単元末の時間に振り返りシートをまとめさせ、その記述内容の変容を見取り、総括的評価を行う。「思考・判断」の単元の学習の総括については、単元末に行う評価問題の結果から総括的評価を行う。単元をとおした総括的評価から得られた情報から補充指導を行うとともに、学習活動や指導法等の単元の指導計画の見直しを行う。

また、単位時間ごとに行われる評価は、単元の指導目標に到達させる過程でつまづいている生徒に対して補充指導を行ったり指導計画の修正を行ったりするための形成的評価として位置付ける。



(4) 中学校社会科における社会的な見方や考え方を育成する指導と評価の在り方に関する基本構想図  
 中学校社会科における社会的な見方や考え方を育成する指導と評価の在り方に関する基本構想を  
 【図3】にまとめた。



【図3】中学校社会科における社会的な見方や考え方を育成する指導と評価の在り方に関する基本構想図

2 基本構想に基づく手だての試案について

(1) 「関心・意欲・態度」「思考・判断」を見取る評価プランを用いた指導に関する試案

基本構想に基づき、「関心・意欲・態度」「思考・判断」を見取る評価プランを用いた指導に関する試案を【図4】に示す。

指導と評価の流れ	指導と評価の手だて	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">計 画</div>	学習指導要領の教科・分野の目標  内容のまとめりごとの学習内容・評価規準  単元の目標・評価規準の明確化  単位時間の目標・評価規準の明確化	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「関心・意欲・態度」の見取りの三つの視点を押さえる。</li> <li>・思考を追究するための方法として「因果・関連」「比較・分類」を押さえる。</li> </ul> </div>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">準 備</div>	振り返りシートの作成（関心・意欲・態度） 学習プリントの作成（思考・判断） 評価問題の作成（思考・判断）	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">指導と評価</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-top: 10px;">単元の導入</div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">↓</div> <div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 2px;">単位時間の学習</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 2px;">単位時間の学習</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 2px;">単位時間の学習</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 2px;">単位時間の学習</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 2px;">単位時間の学習</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 2px;">単位時間の学習</div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">単元のまとめ</div>	<div style="text-align: center; border-bottom: 1px dashed black; padding-bottom: 5px;">【関心・意欲・態度】</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">振り返りシート</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元初発の考えを既習事項や経験などから記入させる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">振り返りシート</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的な見方や考え方の育成過程のどの段階でつまづいているのか見取り，基本となる知識や課題を追究する学び方を確認したり，「思考・判断」を補ったりする指導を行う。</li> <li>・単位時間ごとに形成的評価を行い関心や意欲を方向付けるコメントを積み重ねる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">振り返りシート</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元末に，単元初発と同じテーマについて記入させ，見取りの三つの視点から変容を見取り，総括的評価を行う。</li> <li>・生徒自身に変容を感じさせ，学習への意欲付けを行う。</li> </ul>	<div style="text-align: center; border-bottom: 1px dashed black; padding-bottom: 5px;">【思考・判断】</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">学習プリント</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関係図等を用いたプリントによって見取る。また「因果・関連」「比較・分類」の視点を与えるための以下の段階を追った見取りと指導を行う。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-bottom: 10px;">           学習課題をとらえているか            資料の読み取り方（学び方）が身に付いているか            思考の基となる知識が身に付いているか            「比較・分類」や「因果・関連」の視点をもっているか         </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">評価問題</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・形成的評価として行う。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">評価問題</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総括的評価として行う。また，実現状況に応じて，単元の全体像を確認するため，社会的事象を関連させる指導を行う。</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">指導計画の修正・改善</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価から得られた情報を生かして，学習内容・活動，振り返りシートや学習プリントなどの内容，実現状況に応じた指導の内容，配当時間などを見直し，学習指導を改善する。</li> </ul>	

【図4】「関心・意欲・態度」「思考・判断」を見取る評価プランを活用した指導に関する試案

(2) 試案の「計画」「準備」段階における手だての具体例

前頁【図4】の「計画」「準備」の段階において作成するものを具体例として次に示す。

ア 単元の指導と評価計画表

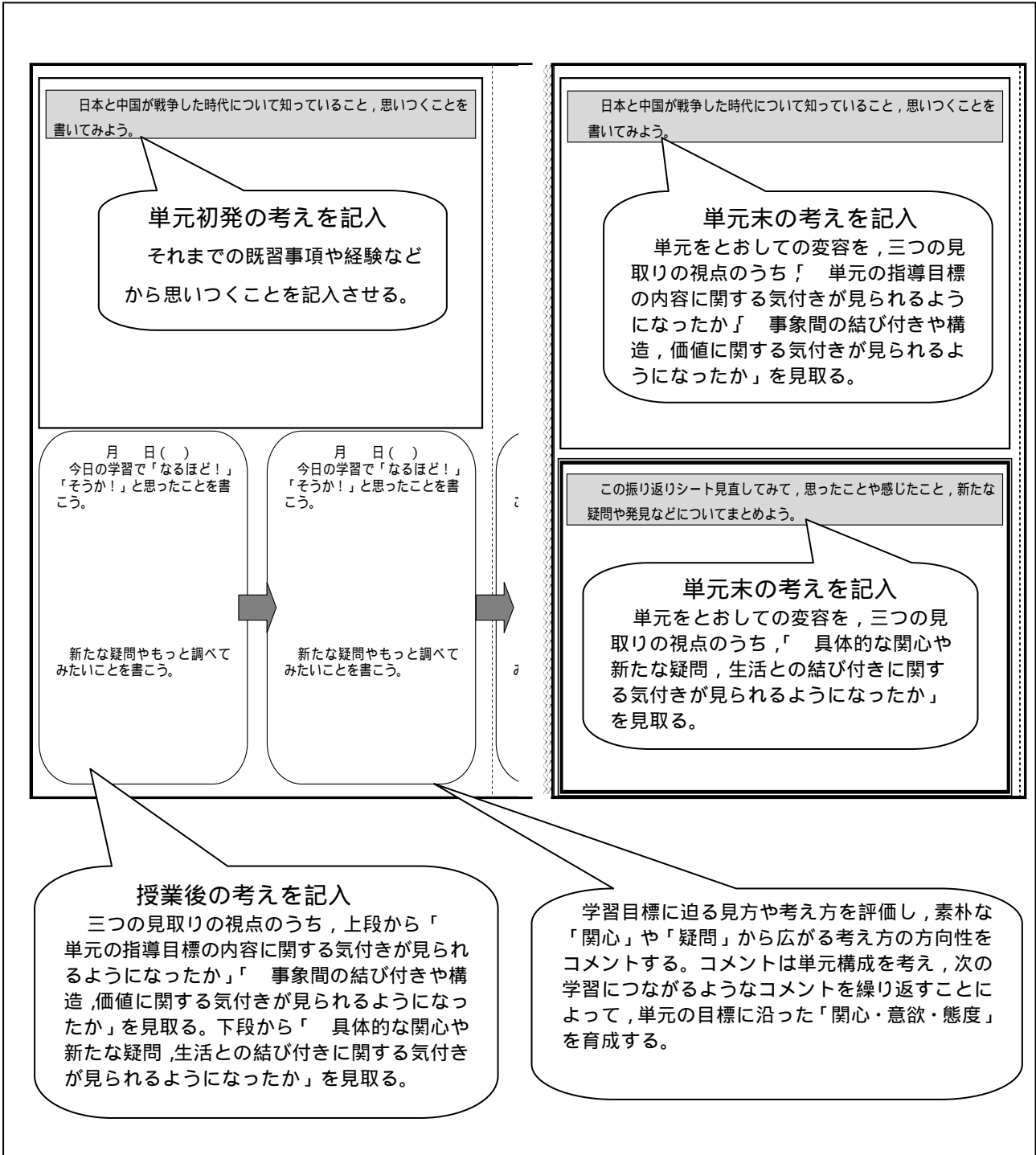
本研究においては、学習指導要領と国立教育政策研究所(2002)の「評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料」を基にし、「関心・意欲・態度」の見取りの三つの視点や思考を追究するための方法として「因果・関連」「比較・分類」をpushさえ、単元や単位時間の指導目標及び評価規準を設定する。このような目標の明確化を受け、単元の指導と評価の計画を立てる。【資料1】は、単元の指導と評価計画表の抜粋を例として示したものである。

第6章 二度の世界大戦と日本 【世界恐慌と日本の中国侵略】の指導と評価計画		単元の評価規準				実現状況に応じた指導	
単元の指導目標	学習内容	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	関心・意欲・態度	思考・判断
<p>(1)昭和初期から第二次世界大戦直前までの我が国の政治・外交の動き、欧米諸国の動きに対する関心を高めさせ、意欲的に追究させる。</p> <p>(2)昭和初期から第二次世界大戦直前までの我が国の政治・外交の動きについて多面的・多角的に考察させる。</p> <p>(3)昭和初期から第二次世界大戦直前までの我が国の政治・外交の動きに関する資料を収集させさせるとともに、課題をまとめさせる。</p> <p>(4)昭和初期から第二次世界大戦直前までの我が国の政治・外交の動き、経済の混乱、台頭から日中戦争ま知識を身に付けさせる。</p>	<p>1 世界恐慌とブロック経済</p> <p>学習目標・学習活動</p> <p>世界恐慌がおこった経緯をとらえ、その対応策としてのニューディール政策やブロック経済、ドイツにおけるファシズムの台頭について理解を深める。</p> <p>学習活動</p> <p>世界恐慌の歴史的背景を考察し、発表する。 ・本時の振り返りを行う。</p>	<p>世界恐慌がおこった経緯をとらえ、その対応策としてのニューディール政策やブロック経済、ドイツにおけるファシズムの台頭について理解を深める。</p>	<p>世界恐慌前後の国際情勢を比較し、恐慌の歴史的背景について考察している。(学習プリントの取組状況、学習プリントの記述内容)</p>	<p>世界恐慌がおこった経緯をとらえ、それに対する欧米諸国の対応について理解し、その知識を身に付けている。(確認テスト)</p>	<p>世界恐慌の経緯やその対応策に関する記述に対して価値付けをする。またその後の世界の様子や世界恐慌と日本の関係への関心につなげるコメントを記入する。</p>	<p>前単元までの歴史の流れを確認し、国際状況の流れに着目させ、恐慌の対応策の結果どのように流れが変わったのか考えさせる。</p>	
<p>2 欧米の情勢と日本</p> <p>学習目標</p> <p>世界恐慌の影響による日本経済の混乱や農業不況による国民生活の困窮の様子をとらえ、その対応策について考える。</p> <p>世界恐慌の発生と各国の対応策について確認する。</p> <p>恐慌の日本への影響をつかむ。</p> <p>満蒙問題について、石原莞爾と石橋湛山の考え方を確認する。</p> <p>当時の状況を考え、自分ならばどちらの意見を採用するのか判断する。</p> <p>他人の発表を聞いて、最後にもう一度自分の考えを書く。</p> <p>本時の振り返りを行う。</p>	<p>世界恐慌の影響による日本経済の混乱や農業不況による国民生活の困窮の様子や、その対応策について関心や疑問をもち、意欲的に調べようとする。(振り返りシート、観察)</p>	<p>世界恐慌の影響による日本経済の混乱や農業不況による国民生活の困窮の様子や、その対応策について関心や疑問をもち、意欲的に調べようとする。(振り返りシート、観察)</p>	<p>【因果・関連】世界恐慌の影響による国民生活の困窮とその対応策について多角的に考察し、判断している。(学習プリントの取組状況、学習プリントの記述内容)</p>	<p>満蒙問題、対する石原莞爾と石橋湛山のそれぞれの考えを資料から読み取っている。(学習プリントの取組状況、学習プリントの記述内容)</p>	<p>世界恐慌の日本への影響や日本が生き抜くための方策に関する記述に対して価値付けをする。またその後の世界の様子や世界恐慌と日本の関係への関心につなげるコメントを記入する。</p>	<p>資料の具体的な箇所に下線を引かせ、両者の考えを簡単に整理し、日本の現状を具体的に指摘したり、前時の学習内容を確認するなどして、判断に根拠を持たせる。また、グループの中で出された意見を参考にするように指示する。</p>	
<p>5 単元のまとめ</p> <p>学習活動</p> <p>「関心・意欲・態度」の見取りの三つの視点をpushさえる。</p>	<p>昭和初期から第二次世界大戦直前までの我が国の政治・外交の動き、欧米諸国の動きについて多面的・多角的に考察し公正に判断している。(評価問題)</p>	<p>昭和初期から第二次世界大戦直前までの我が国の政治・外交の動き、欧米諸国の動きについて多面的・多角的に考察し公正に判断している。(評価問題)</p>	<p>昭和初期から第二次世界大戦直前までの我が国の政治・外交の動き、欧米諸国の動きに関する資料を収集し、有用な情報を選択・活用させるとともに、課題を追究し考察した過程や結果をまとめたり、説明したりしている。(評価問題)</p>	<p>昭和初期から第二次世界大戦直前までの我が国の政治・外交の動き、欧米諸国の動きに着目させ、経済問題の発生、軍部の台頭から日中戦争までの経過を理解し、その知識を身に付けている。(評価問題)</p>	<p>昭和初期から第二次世界大戦直前までの我が国の政治・外交の動き、欧米諸国の動きや社会的事象間の結びつきに関する記述に対する価値付けをする。単元をとおしての変容を肯定的にとらえることができるように努力をたてるコメントを記入する。</p>	<p>補充学習において、昭和初期から第二次世界大戦直前までの基本的な知識や歴史の流れを図式化して構造的に確認させる。</p> <p>発展学習においては、生徒自身が視点を決めて単元の歴史の流れを図式化する作業を行わせる。</p>	

【資料1】単元の指導と評価計画表の抜粋

イ 振り返りシート

【資料2】は振り返りシートの抜粋である。このシートは、単元をとおして生徒に学習を振り返る記述を行わせ、その記述内容から「関心・意欲・態度」を見取り、生徒にも自身の成長を感じさせるために用いるものである。



【資料2】振り返りシートの抜粋

ウ 学習プリント

【資料3】は学習プリント例である。授業で使用し、その記述内容から「思考・判断」の形成的評価を行うために用いるものである。

自分の考えをもち、他との意見交流を経て判断するという活動を通して、どのような社会的事象を結び付けて、その判断の根拠としているのか、「因果・関連」の視点から見取るための学習プリントを例に示す。

2年歴史 教科書 P184~185 平成20年 月( ) 番氏名

第6章 二度の世界大戦と日本 2 世界恐慌と日本の中国侵略  
学習プリントNo. [ ] 欧米の情勢と日本

11 平安 12 鎌倉 13 室町 14 江戸 15 明治 16 昭和 17 18 19 20

「満州をどうするべきか。」 あなたが日本の首相なら、どちらの意見をとりいれますか？

1 二人の考えをまとめよう。

いしばしたんざん 石橋湛山	いしはらかんじ 石原莞爾
------------------	-----------------

2 自分の意見をまとめよう。

100%湛山 ← 気持ちはどの辺? → 100%莞爾

理由

3 最終意見をまとめよう。

100%湛山 ← 気持ちはどの辺? → 100%莞爾

理由

【資料3】学習プリントの例

エ 評価問題

【資料4】は評価問題の例である。この評価問題は「思考・判断」の単元の総括的な見取りにおいて用いるものである。

それぞれの社会的事象の意味を考えながら、どのような概念で分類できるのか「比較・分類」の視点から見取るための評価問題を例に示す。

3 次の各設問に答えなさい。

(1) 例1・2のようにア~キまでのカードから、自分で3枚以上取り出して、そのまとまりに表題を付けなさい。ただし例に挙げたものは除くこととします。 【思考・判断】

	記号	表題
例1	ア, ウ, エ, キ	外国でおきた出来事
例2	イ, オ, カ	日本でおきた出来事

【カード】

ア ヒトラーは1933年に高速自動車道路を建設し始めた。	イ 朝鮮では、日本語の使用や姓名の表し方を日本式に改めさせることをおし進めた。	ウ 関東軍は、奉天郊外で満州鉄道の線路を爆破し、それを機に軍事行動を開始した。
エ ルーズベルトはテネシー川流域に多くのダムを造った。	オ 1936年、陸軍の青年将校が、首相官邸や警視庁などを襲撃した。	カ (五一五事件を伝える新聞記事)
キ イギリスは植民地との間の関税を低くし、他国からの商品には高い関税をかけた。		

【資料4】評価問題の例

## 研究のまとめ

### 1 研究の成果

この研究は、中学校社会科において、評価プランの作成と活用をとおして、「関心・意欲・態度」「思考・判断」の指導と評価の在り方について明らかにし、社会的な見方や考え方の育成を目指した学習指導の改善に役立てようとするものである。本年度は、中学校社会科における社会的な見方や考え方を育成する指導と評価の在り方に関する基本的な考え方を検討し、その基本構想を立案した。その結果、次のような成果を得ることができた。

#### (1) 中学校社会科における社会的な見方や考え方を育成する指導と評価の在り方に関する基本的な考え方の検討

文献を基に、中学校社会科における社会的な見方や考え方や「関心・意欲・態度」「思考・判断」を見取る評価プランを作成する意義と内容について検討した。この中で、社会的な見方や考え方の育成過程と「関心・意欲・態度」「思考・判断」とのかかわりを明らかにし、「関心・意欲・態度」「思考・判断」を見取る視点と見取りの方法、実現状況の応じた指導の在り方を明らかにすることができた。これによって、中学校社会科における社会的な見方や考え方を育成する指導と評価の在り方に関する基本構想を立案することができた。

#### (2) 「関心・意欲・態度」「思考・判断」を見取る評価プランを用いた指導試案の検討

基本構想の立案により、中学校社会科における社会的な見方や考え方を育成するための「関心・意欲・態度」「思考・判断」を見取る評価プランを用いた指導試案について検討し、それに基づいた指導計画の作成及び指導実践の見通しをもつことができた。

### 2 今後の課題

第2年次の研究では、本年度の研究成果を踏まえて、「関心・意欲・態度」「思考・判断」を見取る評価プランの改善を行う。また、改善した「関心・意欲・態度」「思考・判断」を見取る評価プランを基に指導実践を行い、その分析と考察をとおして、中学校社会科における社会的な見方や考え方を育成する指導と評価の在り方に関する研究のまとめを行う。

〔おわりに〕

この研究を進めるにあたり、ご協力いただきました研究協力校の先生方に心からお礼を申し上げます。

### 【引用文献】

岩田一彦(1984),『地理教科書を活用したわかる授業の創造』,明治図書, pp.11-23

鈴木 円(2005),「小学校社会科における考える力としての思考技能育成」,『学苑 初等教育学科紀要』, pp.69-72

長瀬荘一(2003),『関心・意欲・態度(情意的領域)の絶対評価』,明治図書,p.83

堀 哲夫(2006),『一枚ポートフォリオ評価 中学校編』,日本標準,p.8

文部省(1999),『中学校学習指導要領 解説 - 社会編 - 』,p.19

Bloom,B.S. et al.(1971),『Handbook on formative and summative evaluation of student learning.』, McGraw-Hill

【引用Webページ】

国立教育政策研究所 学習評価の工夫改善に関する調査研究

<http://www.nier.go.jp/homepage/kyoutsuu/index.html>

文部科学省 小学校児童指導要録，中学校生徒指導要録，高等学校生徒指導要録，中等教育学校生徒指導要録並びに盲学校，聾学校及び養護学校の小学部児童指導要録，中学部生徒指導要録及び高等部生徒指導要録の改善等について（通知）

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/13/04/010425.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/13/04/010425.htm)

【参考文献】

梶田叡一(2002)，『教育評価〔第2版補訂版〕』，有斐閣

北 俊夫(2004)，『社会科の思考を鍛える新テスト』，明治図書

熊本県立教育センター(2005)，『平成16年度研究紀要 個に応じた指導研究を中心として』

澁澤文隆(2003)，『絶対評価成功の秘訣・運用の基本』，明治図書

高浦勝義(2006)，『ルーブリックを活用した授業づくりと評価』，教育開発研究所

西岡加名恵(2003)，『教科と総合に活かすポートフォリオ評価法』，図書文化

山森光陽(2005)，「関心・意欲・態度の目標準拠評価の妥当性を高める」，『指導と評価』11月号，図書文化

【参考Webページ】

国立教育政策研究所 評価規準の作成，評価方法の工夫改善のための参考資料

[http://www.nier.go.jp/kaihatsu/houkoku/index\\_jh.htm](http://www.nier.go.jp/kaihatsu/houkoku/index_jh.htm)

# 補充資料

- 【補充資料 1】 単元の指導と評価計画表の例.....資 1
- 【補充資料 2】 「関心・意欲・態度」を見取る振り返りシート..... 資 4
- 【補充資料 3】 「思考・判断」を見取る評価問題の例..... 資 5



【補足資料1】単元の指導と評価計画表の例

第6章 二度の世界大戦と日本【第一次世界大戦とアジア・日本】の指導と評価計画

単元の指導目標		単元の評価規準					
		関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解		
<p>(1) 第一次世界大戦前後の国際情勢のあらましと、この時期の国民の政治的自覚の高まりに対する関心を高めさせ、意欲的に追究させる。</p> <p>(2) 第一次世界大戦の背景や戦後の国際協調の動き、政党政治の発達、社会運動の展開などをとおして、第一次世界大戦前後の国際情勢のあらましと、国民の政治的自覚の高まりを多面的・多角的に考察させ、公正に判断させる。</p> <p>(3) 第一次世界大戦前後の国際情勢のあらましと、この時期の国民の政治的自覚の高まりに関する資料を収集させ、有用な情報を選択・活用させるとともに、課題を追求し考察した過程や結果をまとめさせる。</p> <p>(4) 第一次世界大戦前後の我が国と世界の動きのあらましを理解させるとともに、この時期の国民の政治的自覚の高まりに気付かせ、その知識を身に付けさせる。</p>		<p>関心・意欲・態度</p> <p>・第一次世界大戦前後の国際情勢のあらましと、この時期の国民の政治的自覚の高まりに対する関心を高めさせ、意欲的に追究している。</p>	<p>思考・判断</p> <p>・第一次世界大戦前後の国際情勢の背景や戦後の国際協調の動き、政党政治の発達、社会運動の展開などをとおして、政治・社会の動きとその特色を多面的・多角的に考察し公正に判断している。</p>	<p>技能・表現</p> <p>・第一次世界大戦前後の国際情勢のあらましと、この時期の国民の政治的自覚の高まりに関する資料を収集し、有用な情報を選択・活用させるとともに、課題を追求し考察した過程や結果をまとめたり、説明したりしている。</p>	<p>知識・理解</p> <p>・第一次世界大戦の背景や戦後の国際協調の動きと、我が国の政治社会の動きを理解し、その知識を身に付けている。</p>		
学習内容	時間	学習目標・学習活動	学習活動における具体的評価規準			実現状況に応じた指導	
1 第一次世界大戦とロシア革命	1	<p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第一次世界大戦の背景や経緯をとらえ、その最中に起きたロシア革命と日本への影響を理解する。</li> <li>・第一次世界大戦と日露戦争の死者数を比較する。</li> <li>・第一次世界大戦の背景を調べる。</li> <li>・第一次世界大戦のようすをそれまでの戦争と比較しながら調べる。</li> <li>・ロシア革命とシベリア出兵について調べる。本時の振り返りを行う。</li> </ul> <p>学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大戦後に高まった国際協調や各国のデモクラシーの流れについて理解する。</li> <li>・第一次世界大戦のようすについて確認する。</li> <li>・ドイツのようすからベルサイユ条約について調べる。</li> <li>・国際連盟や軍縮について調べる。</li> <li>・イギリスやドイツの動きをとおしてデモクラシーの高まりについて調べる。</li> <li>・本時の振り返りを行う。</li> </ul>	<p>関心・意欲・態度</p> <p>・第一次世界大戦の背景や経緯をとらえ、その最中に起きたロシア革命と日本への影響について関心や疑問をもち、意欲的に調べようとする。(振り返りシート、観察)</p>	<p>思考・判断</p> <p>【比較・分類】</p> <p>・第一次世界大戦とそれまでの戦争を比較し、世界大戦の特徴について考察している。</p> <p>・学習プリントの取組状況、学習プリントの記述内容)</p>	<p>技能・表現</p> <p>・デモクラシーの動きを、各国の比較の表に表している。(学習プリントの取組状況、学習プリントの記述内容)</p>	<p>知識・理解</p> <p>・第一次世界大戦の背景や経緯をとらえ、その最中に起きたロシア革命と日本への影響について理解し、その知識を身に付けている。(確認テスト)</p>	<p>関心・意欲・態度</p> <p>第一次世界大戦のあらましやロシア革命に関する記述に対して価値付けをする。また大戦後の様子や日本とのかわりに関心がつながらるコメントを記入する。</p> <p>思考・判断</p> <p>新兵器の開発や国民の戦争へのかわり方に着目させ、比較させることによって総力戦の意味をとらえさせる。</p>
2 国際協調の高まり	1	<p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大戦後に高まった国際協調や各国のデモクラシーの流れについて理解する。</li> <li>・第一次世界大戦のようすについて確認する。</li> <li>・ドイツのようすからベルサイユ条約について調べる。</li> <li>・国際連盟や軍縮について調べる。</li> <li>・イギリスやドイツの動きをとおしてデモクラシーの高まりについて調べる。</li> <li>・本時の振り返りを行う。</li> </ul> <p>学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大戦後に高まった国際協調や各国のデモクラシーの流れについて関心や疑問をもち、意欲的に調べようとする。(振り返りシート、観察)</li> </ul>	<p>関心・意欲・態度</p> <p>・大戦後に高まった国際協調や各国のデモクラシーの流れについて関心や疑問をもち、意欲的に調べようとする。(振り返りシート、観察)</p>	<p>思考・判断</p> <p>【因果・関連】</p> <p>・五四運動、三一独立運動、インドの民族運動の経緯をとらえ、大戦後の世界の流れを考察している。</p> <p>・学習プリントの取組状況、学習プリントの記述内容)</p>	<p>技能・表現</p> <p>・デモクラシーの動きを、各国の比較の表に表している。(学習プリントの取組状況、学習プリントの記述内容)</p>	<p>知識・理解</p> <p>・大戦後に高まった国際協調や各国のデモクラシーの流れについて理解し、その知識を身に付けている。(確認テスト)</p>	<p>関心・意欲・態度</p> <p>大戦後の国際協調やデモクラシーの高まりに関する記述に対して価値付けをする。また日本やその他の地域への影響への関心につながらるコメントを記入する。</p> <p>思考・判断</p> <p>前時に学習した「民族自決」の考え方を確認し、共通性や大戦後の世界の流れをつかむ視点を与える。また、グループの中で出された意見を参考にするように指示する。</p>
3 アジアの民族運動	1	<p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アジアの民族自決の動きと日本の対外政策について理解する。</li> <li>・列強によるアジアの植民地化について確認する。</li> <li>・第一次世界大戦中の日本の対外政策のあらましをつかむ。</li> <li>・資料から五四運動、三一独立運動、インドの民族運動のあらましを調べる。</li> <li>・五四運動、三一独立運動、インドの民族運動の関連を考え、発表する。</li> <li>・本時の振り返りを行う。</li> </ul> <p>学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大戦後に高まった国際協調や各国のデモクラシーの流れについて関心や疑問をもち、意欲的に調べようとする。(振り返りシート、観察)</li> </ul>	<p>関心・意欲・態度</p> <p>・アジアの民族自決の動きと日本の対外政策について関心や疑問をもち、意欲的に調べようとする。(振り返りシート、観察)</p>	<p>思考・判断</p> <p>【因果・関連】</p> <p>・五四運動、三一独立運動、インドの民族運動の経緯をとらえ、大戦後の世界の流れを考察している。</p> <p>・学習プリントの取組状況、学習プリントの記述内容)</p>	<p>技能・表現</p> <p>・普通選挙実現の要因に関する資料から必要な情報を読み取り、学習プリントなどに記入している。(学習プリントの取組状況)</p>	<p>知識・理解</p> <p>・第一次世界大戦中から戦後にかけて日本でも民主主義を求めた運動がさかんになったことを理解し、その知識を身に付けている。(確認テスト)</p>	<p>関心・意欲・態度</p> <p>アジアの民族自決の動きに関する記述に対して価値付けをする。またその後の民族自決や独立を求める運動に関心がつながらるコメントを記入する。</p> <p>思考・判断</p> <p>大正デモクラシーの高まりに関する記述に対して価値付けをする。またその後の国内政治や国民の要求に関心がつながらるコメントを記入する。</p>
4 大正デモクラシー	1	<p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大正デモクラシーの高まりについて、護憲運動や政党政治、普通選挙の実現をとおして理解する。</li> <li>・普通選挙の概念を確認する。</li> <li>・普通選挙が実現した理由を考え、班でまとめる。</li> <li>・護憲運動、外国の動き、教育・文化の進展から検証する。</li> <li>・本時の振り返りを行う。</li> </ul> <p>学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大正デモクラシーの高まりについて関心や疑問をもち、意欲的に調べようとする。(振り返りシート、観察)</li> </ul>	<p>関心・意欲・態度</p> <p>・大正デモクラシーの高まりについて関心や疑問をもち、意欲的に調べようとする。(振り返りシート、観察)</p>	<p>思考・判断</p> <p>【比較・分類】</p> <p>・大正期の文化の特徴を、大衆性の進展からとらえ、明治期の文化との比較から考察している。(学習プリントの取組状況、学習プリントの記述内容)</p>	<p>技能・表現</p> <p>・労働者、農民、女性運動や全国水平社をとおして社会運動の高まりを理解し、その知識を身に付けている。(確認テスト)</p>	<p>知識・理解</p> <p>・大正期の文化は、欧米との交流、都市や産業の発達、国民の要求などを背景に大衆文化がすすんだことを理解し、その知識を身に付けている。(確認テスト)</p>	<p>関心・意欲・態度</p> <p>大正デモクラシーの高まりに関する記述に対して価値付けをする。またその後の国内政治や国民の要求に関心がつながらるコメントを記入する。</p> <p>思考・判断</p> <p>現代の都市文化や大衆文化につながる事象に着目させ、明治期の文化との違いをつかませる。</p>
5 広がる社会運動	1	<p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デモクラシーの風潮のなかで、多くの社会運動がさかんになったことを理解する。</li> <li>・普通選挙法と治安維持法について確認する。</li> <li>・女性参政権を求める運動について調べる。</li> <li>・その他の社会運動について班ごとにまとめる。</li> <li>・本時の振り返りを行う。</li> </ul> <p>学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会運動の高まりについて関心や疑問をもち、意欲的に調べようとする。(振り返りシート、観察)</li> </ul>	<p>関心・意欲・態度</p> <p>・社会運動の高まりについて関心や疑問をもち、意欲的に調べようとする。(振り返りシート、観察)</p>	<p>思考・判断</p> <p>【比較・分類】</p> <p>・大正期の文化の特徴を、大衆性の進展からとらえ、明治期の文化との比較から考察している。(学習プリントの取組状況、学習プリントの記述内容)</p>	<p>技能・表現</p> <p>・労働者、農民、女性運動や全国水平社をとおして社会運動の高まりを理解し、その知識を身に付けている。(確認テスト)</p>	<p>知識・理解</p> <p>・大正期の文化は、欧米との交流、都市や産業の発達、国民の要求などを背景に大衆文化がすすんだことを理解し、その知識を身に付けている。(確認テスト)</p>	<p>関心・意欲・態度</p> <p>社会運動の高まりに関する記述に対して価値付けをする。またその後の運動や差別の様子への関心につながらるコメントを記入する。</p> <p>思考・判断</p> <p>大正期の文化や教育に関する記述に対して価値付けをする。またその後の大衆文化や教育の進展への関心につながらるコメントを記入する。</p>
6 都市化と大衆文化	1	<p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国民生活の変化をとおして、大正期の教育や文化の特色を理解する。</li> <li>・現代の都市文化が大正期に始まったことをとらえる。</li> <li>・大正期の教育や文化を明治期と比較し、違いを発表する。</li> <li>・文化の時代背景の変化を調べる。</li> <li>・本学の振り返りを行う。</li> </ul> <p>学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大正期の文化は、欧米との交流、都市や産業の発達、国民の要求などを背景に大衆文化がすすんだことを理解し、その知識を身に付けている。(確認テスト)</li> </ul>	<p>関心・意欲・態度</p> <p>・大正期の教育と文化の展開について関心や疑問をもち、意欲的に調べようとする。(観察法・振り返りシート)</p>	<p>思考・判断</p> <p>【比較・分類】</p> <p>・大正期の文化の特徴を、大衆性の進展からとらえ、明治期の文化との比較から考察している。(学習プリントの取組状況、学習プリントの記述内容)</p>	<p>技能・表現</p> <p>・労働者、農民、女性運動や全国水平社をとおして社会運動の高まりを理解し、その知識を身に付けている。(確認テスト)</p>	<p>知識・理解</p> <p>・大正期の文化は、欧米との交流、都市や産業の発達、国民の要求などを背景に大衆文化がすすんだことを理解し、その知識を身に付けている。(確認テスト)</p>	<p>関心・意欲・態度</p> <p>大正期の文化や教育に関する記述に対して価値付けをする。またその後の大衆文化や教育の進展への関心につながらるコメントを記入する。</p> <p>思考・判断</p> <p>現代の都市文化や大衆文化につながる事象に着目させ、明治期の文化との違いをつかませる。</p>
7 単元のまとめ	2	<p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の学習を振り返り、自己の変容や課題、学習内容に対する新たな疑問・発見を理解する。</li> <li>① 評価問題(単元テスト)に取り組む。</li> <li>・振り返りシートをまとめる。</li> <li>② 評価問題の実現状況に応じたコース別学習を行う。</li> </ul> <p>学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第一次世界大戦前後の国際情勢のあらましと、この時期の国民の政治的自覚の高まりについて、社会的現象や因果関係をとらえ、新たな疑問や具体的な関心をもちようとする。(振り返りシート)</li> </ul>	<p>関心・意欲・態度</p> <p>・第一次世界大戦前後の国際情勢のあらましと、この時期の国民の政治的自覚の高まりについて、社会的現象や因果関係をとらえ、新たな疑問や具体的な関心をもちようとする。(振り返りシート)</p>	<p>思考・判断</p> <p>・第一次世界大戦前後の国際情勢の背景や戦後の国際協調の動き、政党政治の発達、社会運動の展開などをとおして、政治・社会の動きとその特色を多面的・多角的に考察し公正に判断している。(評価問題)</p>	<p>技能・表現</p> <p>・第一次世界大戦前後の国際情勢の背景や戦後の国際協調の動き、我が国の政治社会の動きを理解し、その知識を身に付けている。(評価問題)</p>	<p>知識・理解</p> <p>・第一次世界大戦の背景や戦後の国際協調の動きと、我が国の政治社会の動きを理解し、その知識を身に付けている。(評価問題)</p>	<p>関心・意欲・態度</p> <p>第一次世界大戦前後の国際情勢のあらましと、この時期の国民の政治的自覚の高まりにかかわる社会的現象間の結びつきに関する記述に対する価値付けをする。単元をとおしての変容を肯定的にとらえることができるように努力をたたえるコメントを記入する。</p> <p>思考・判断</p> <p>補充学習において、第一次世界大戦前後の基本的な知識や歴史の流れを図式化して構造的に確認させる。</p> <p>発展学習においては、生徒自身が視点を決めて単元の歴史の流れを図式化する作業を行わせる。</p>

【思考・判断を見取る評価問題】  
総括的评价として実施し、実現状況を見取る。

第6章 二度の世界大戦と日本【世界恐慌と日本の中国侵略】の指導と評価計画

単元の指導目標		単元の評価規準						
学習内容		学習における具体的評価規準				実現状況に応じた指導		
時	学習目標・学習活動	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解			
1 世界恐慌とブロック経済	目標	・世界恐慌がおこった経緯をとらえ、その対策としてのニューディール政策やブロック経済、ドイツにおけるファシズムの台頭について理解する。	・世界恐慌がおこった経緯やそれに対する欧米諸国の対応について関心や疑問をもち、意欲的に調べようとする。(振り返りシート、観察)	【比較・分類】 ・世界恐慌前後の国際情勢を比較し、恐慌の歴史の意味について考察している。(学習プリントの取組状況、学習プリントの記述内容)	・昭和初期から第二次世界大戦直前までの我が国の政治・外交の動き、欧米諸国の動きに関する資料を収集し、有用な情報を選択・活用させるとともに、課題を追求し考察した過程や結果をまとめてみる。	・昭和初期から第二次世界大戦直前までの我が国の政治・外交の動き、欧米諸国の動きに着目させ、経済の混乱と社会問題の発生、軍部の台頭から日中戦争までの経過を理解し、その知識を身に付けている。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <b>関心・意欲・態度</b>                      世界恐慌の経緯やその対応策に関する記述に対して価値付けをする。またその後の世界の様子や世界恐慌と日本の関係への関心につなげるコメントを記入する。                 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <b>思考・判断</b>                      前単元までの歴史の流れを確認をし、国際状況の流れに着目させ、恐慌の対応策の結果どのように流れが変わったのか考えさせる。                 </div>	
	学習活動	・第一次世界大戦後の世界情勢を確認する。 ・資料から世界恐慌のあらましに関して分かることを発表する。 ・当時の列強国の世界恐慌への対応策を調べる。 ・恐慌以前と以後の国際情勢を比較し、恐慌の歴史の意味を考え、発表する。 ・本時の振り返りを行う。	・世界恐慌の影響による日本経済の混乱や農業不況による国民生活の困窮の様子をとらえ、その対応策について考える。	【因果・関連】 ・世界恐慌の影響による国民生活の困窮とその対応策について多角的に考察し、判断している。(学習プリントの取組状況、学習プリントの記述内容)	・満蒙問題、に対する石原莞爾と石橋湛山のそれぞれ考えを資料から読み取っている。(学習プリントの取組状況、学習プリントの記述内容)	・世界恐慌がおこった経緯をとらえ、それに対する欧米諸国の対応について理解し、その知識を身に付けている。(確認テスト)		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <b>関心・意欲・態度</b>                      世界恐慌の日本への影響や日本が生き抜くための方策に関する記述に対して価値付けをする。またその後の世界の様子や世界恐慌と日本の関係への関心につなげるコメントを記入する。                 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <b>思考・判断</b>                      資料の具体的な主張の違いの箇所を下線を引き、両者の考えを簡単に整理し、日本の現状を具体的に指摘したり、前時の学習内容を確認するなどして、判断に根拠を持たせる。また、グループの中で出された意見を参考にするように指示する。                 </div>
2 欧米の情勢と日本	目標	・世界恐慌の発生と各国の対応策について確認する。 ・恐慌の日本への影響をつかむ。 ・満蒙問題、について、石原莞爾と石橋湛山の考え方を確認する。 ・当時の状況を考えて、自分ならばどちらの意見を採用するの判断する。 ・他人の発表を聞いて、最後にもう一度自分の考えを書く。 ・本時の振り返りを行う。	・満洲事変後、二二六事件などをきっかけに軍部が次第に発言力を強めていったことを理解する。 ・満蒙問題について確認する。 ・リットン調査団に関する資料から満洲事変のあらましをつかむ。 ・新聞記事資料などから五一五事件と二二六事件のあらましを調べる。 ・満洲事変、五一五事件、二二六事件が政治や社会に及ぼした影響について関連を考え、発表する。 ・本時の振り返りを行う。	・満洲事変や五一五事件、二二六事件の経緯をとらえ、事件の背景やその後の政治に及ぼした影響を考察している。(学習プリントの取組状況、学習プリントの記述内容)	・満洲事変、二二六事件、二二六事件の経緯をとらえ、事件の背景やその後の政治に及ぼした影響を考察している。(学習プリントの取組状況、学習プリントの記述内容)	・満洲事変、二二六事件、二二六事件の経緯をとらえ、事件の背景やその後の政治に及ぼした影響を考察している。(学習プリントの取組状況、学習プリントの記述内容)	・満洲事変、二二六事件、二二六事件の経緯をとらえ、事件の背景やその後の政治に及ぼした影響を考察している。(学習プリントの取組状況、学習プリントの記述内容)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <b>関心・意欲・態度</b>                      世界恐慌から満洲事変に至る流れや二二六事件等の軍部の台頭に関する記述に対して価値付けをする。またその後の日本と中国の関係への関心につなげるコメントを記入する。                 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <b>思考・判断</b>                      具体的な出来事の影響に着目させ、満洲事変から国際連盟脱退に至る国内情勢の共通性に気付かせ、三つの出来事に関連するキーワードを板書から見つけさせ、そのつながりを考えさせる。また、グループの中で出された意見を参考にするように指示する。                 </div>
	学習活動	・満洲事変後、二二六事件などをきっかけに軍部が次第に発言力を強めていったことを理解する。 ・満蒙問題について確認する。 ・リットン調査団に関する資料から満洲事変のあらましをつかむ。 ・新聞記事資料などから五一五事件と二二六事件のあらましを調べる。 ・満洲事変、五一五事件、二二六事件が政治や社会に及ぼした影響について関連を考え、発表する。 ・本時の振り返りを行う。	・満洲事変後、二二六事件などをきっかけに軍部が次第に発言力を強めていったことを理解する。 ・満蒙問題について確認する。 ・リットン調査団に関する資料から満洲事変のあらましをつかむ。 ・新聞記事資料などから五一五事件と二二六事件のあらましを調べる。 ・満洲事変、五一五事件、二二六事件が政治や社会に及ぼした影響について関連を考え、発表する。 ・本時の振り返りを行う。	・満洲事変や五一五事件、二二六事件の経緯をとらえ、事件の背景やその後の政治に及ぼした影響を考察している。(学習プリントの取組状況、学習プリントの記述内容)	・満洲事変や五一五事件、二二六事件の経緯をとらえ、事件の背景やその後の政治に及ぼした影響を考察している。(学習プリントの取組状況、学習プリントの記述内容)	・満洲事変や五一五事件、二二六事件の経緯をとらえ、事件の背景やその後の政治に及ぼした影響を考察している。(学習プリントの取組状況、学習プリントの記述内容)	・満洲事変や五一五事件、二二六事件の経緯をとらえ、事件の背景やその後の政治に及ぼした影響を考察している。(学習プリントの取組状況、学習プリントの記述内容)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <b>関心・意欲・態度</b>                      世界恐慌から満洲事変に至る流れや二二六事件等の軍部の台頭に関する記述に対して価値付けをする。またその後の日本と中国の関係への関心につなげるコメントを記入する。                 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <b>思考・判断</b>                      具体的な出来事の影響に着目させ、満洲事変から国際連盟脱退に至る国内情勢の共通性に気付かせ、三つの出来事に関連するキーワードを板書から見つけさせ、そのつながりを考えさせる。また、グループの中で出された意見を参考にするように指示する。                 </div>
3 日本の中国侵略	目標	・満洲をめぐると対立から日中戦争が始まったことや中国の抵抗によって戦争が長期化していったことを理解する。 ・世界恐慌から満洲事変までの流れを確認する。 ・当時の官製スローガンの看板などから統制経済の下の国民生活をつかむ。 ・日中戦争開戦までの経緯について調べる。 ・地図などから日中戦争の長期化のようすを読み取り、発表する。 ・斎藤隆夫の演説から、政府、議会、軍部の問題点を考える。 ・本時の振り返りを行う。	・日中戦争開戦までの経緯や戦争の長期化のあらましについて関心や疑問をもち、意欲的に調べようとする。(振り返りシート、観察)	・地図を活用して日本軍の進路や占領年などから日中戦争の広がりや長期化のようすを読み取っている。(学習プリントの取組状況)	・日中戦争の経緯をとらえ、国民生活が次第に統制されていった状況を理解し、その知識を身に付けている。(確認テスト)	・日中戦争の経緯をとらえ、国民生活が次第に統制されていった状況を理解し、その知識を身に付けている。(確認テスト)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <b>関心・意欲・態度</b>                      日中戦争開戦の経緯やその長期化による国民生活への影響に関する記述に対する価値付けをする。またその後の日中戦争の行方への関心につなげるコメントを記入する。                 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <b>思考・判断</b>                      昭和初期から第二次世界大戦直前までの我が国の政治・外交の動き、欧米諸国の動きに着目させ、経済の混乱と社会問題の発生、軍部の台頭から日中戦争までの経過を理解し、その知識を身に付けている。(評価問題)                 </div>	
	学習活動	・満洲をめぐると対立から日中戦争が始まったことや中国の抵抗によって戦争が長期化していったことを理解する。 ・世界恐慌から満洲事変までの流れを確認する。 ・当時の官製スローガンの看板などから統制経済の下の国民生活をつかむ。 ・日中戦争開戦までの経緯について調べる。 ・地図などから日中戦争の長期化のようすを読み取り、発表する。 ・斎藤隆夫の演説から、政府、議会、軍部の問題点を考える。 ・本時の振り返りを行う。	・日中戦争開戦までの経緯や戦争の長期化のあらましについて関心や疑問をもち、意欲的に調べようとする。(振り返りシート、観察)	・地図を活用して日本軍の進路や占領年などから日中戦争の広がりや長期化のようすを読み取っている。(学習プリントの取組状況)	・日中戦争の経緯をとらえ、国民生活が次第に統制されていった状況を理解し、その知識を身に付けている。(確認テスト)	・日中戦争の経緯をとらえ、国民生活が次第に統制されていった状況を理解し、その知識を身に付けている。(確認テスト)	・日中戦争の経緯をとらえ、国民生活が次第に統制されていった状況を理解し、その知識を身に付けている。(確認テスト)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <b>関心・意欲・態度</b>                      日中戦争開戦の経緯やその長期化による国民生活への影響に関する記述に対する価値付けをする。またその後の日中戦争の行方への関心につなげるコメントを記入する。                 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <b>思考・判断</b>                      昭和初期から第二次世界大戦直前までの我が国の政治・外交の動き、欧米諸国の動きに着目させ、経済の混乱と社会問題の発生、軍部の台頭から日中戦争までの経過を理解し、その知識を身に付けている。(評価問題)                 </div>
4 日中全面戦争	目標	・満洲をめぐると対立から日中戦争が始まったことや中国の抵抗によって戦争が長期化していったことを理解する。 ・世界恐慌から満洲事変までの流れを確認する。 ・当時の官製スローガンの看板などから統制経済の下の国民生活をつかむ。 ・日中戦争開戦までの経緯について調べる。 ・地図などから日中戦争の長期化のようすを読み取り、発表する。 ・斎藤隆夫の演説から、政府、議会、軍部の問題点を考える。 ・本時の振り返りを行う。	・日中戦争開戦までの経緯や戦争の長期化のあらましについて関心や疑問をもち、意欲的に調べようとする。(振り返りシート、観察)	・地図を活用して日本軍の進路や占領年などから日中戦争の広がりや長期化のようすを読み取っている。(学習プリントの取組状況)	・日中戦争の経緯をとらえ、国民生活が次第に統制されていった状況を理解し、その知識を身に付けている。(確認テスト)	・日中戦争の経緯をとらえ、国民生活が次第に統制されていった状況を理解し、その知識を身に付けている。(確認テスト)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <b>関心・意欲・態度</b>                      日中戦争開戦の経緯やその長期化による国民生活への影響に関する記述に対する価値付けをする。またその後の日中戦争の行方への関心につなげるコメントを記入する。                 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <b>思考・判断</b>                      昭和初期から第二次世界大戦直前までの我が国の政治・外交の動き、欧米諸国の動きに着目させ、経済の混乱と社会問題の発生、軍部の台頭から日中戦争までの経過を理解し、その知識を身に付けている。(評価問題)                 </div>	
	学習活動	・満洲をめぐると対立から日中戦争が始まったことや中国の抵抗によって戦争が長期化していったことを理解する。 ・世界恐慌から満洲事変までの流れを確認する。 ・当時の官製スローガンの看板などから統制経済の下の国民生活をつかむ。 ・日中戦争開戦までの経緯について調べる。 ・地図などから日中戦争の長期化のようすを読み取り、発表する。 ・斎藤隆夫の演説から、政府、議会、軍部の問題点を考える。 ・本時の振り返りを行う。	・日中戦争開戦までの経緯や戦争の長期化のあらましについて関心や疑問をもち、意欲的に調べようとする。(振り返りシート、観察)	・地図を活用して日本軍の進路や占領年などから日中戦争の広がりや長期化のようすを読み取っている。(学習プリントの取組状況)	・日中戦争の経緯をとらえ、国民生活が次第に統制されていった状況を理解し、その知識を身に付けている。(確認テスト)	・日中戦争の経緯をとらえ、国民生活が次第に統制されていった状況を理解し、その知識を身に付けている。(確認テスト)	・日中戦争の経緯をとらえ、国民生活が次第に統制されていった状況を理解し、その知識を身に付けている。(確認テスト)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <b>関心・意欲・態度</b>                      日中戦争開戦の経緯やその長期化による国民生活への影響に関する記述に対する価値付けをする。またその後の日中戦争の行方への関心につなげるコメントを記入する。                 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <b>思考・判断</b>                      昭和初期から第二次世界大戦直前までの我が国の政治・外交の動き、欧米諸国の動きに着目させ、経済の混乱と社会問題の発生、軍部の台頭から日中戦争までの経過を理解し、その知識を身に付けている。(評価問題)                 </div>
5 単元のまとめ	目標	・単元の学習を振り返り、自己の変容や課題、学習内容に対する新たな疑問・発見を理解する。 ① 評価問題(単元テスト)に取り組み、振り返りシートをまとめる。 ・評価問題の実現状況に応じたコース別学習を行う。	・昭和初期から第二次世界大戦直前までの我が国の政治・外交の動き、欧米諸国の動きについて、社会的事象や因果関係をとらえ、新たな疑問や具体的な関心をもととする。(振り返りシート)	【思考・判断を見取る評価問題】 総合的評価として実施し、実現状況を見取る。	・昭和初期から第二次世界大戦直前までの我が国の政治・外交の動き、欧米諸国の動きに着目させ、経済の混乱と社会問題の発生、軍部の台頭から日中戦争までの経過を理解し、その知識を身に付けている。(評価問題)	・昭和初期から第二次世界大戦直前までの我が国の政治・外交の動き、欧米諸国の動きに着目させ、経済の混乱と社会問題の発生、軍部の台頭から日中戦争までの経過を理解し、その知識を身に付けている。(評価問題)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <b>関心・意欲・態度</b>                      昭和初期から第二次世界大戦直前までの我が国の政治・外交の動き、欧米諸国の動きに着目させ、経済の混乱と社会問題の発生、軍部の台頭から日中戦争までの経過を理解し、その知識を身に付けている。(評価問題)                 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <b>思考・判断</b>                      補充学習において、昭和初期から第二次世界大戦直前までの基本的な知識や歴史の流れを図式化して構造的に確認させる。発展学習においては、生徒自身が視点を決めて単元の歴史の流れを図式化する作業を行う。                 </div>	
	学習活動	・単元の学習を振り返り、自己の変容や課題、学習内容に対する新たな疑問・発見を理解する。 ① 評価問題(単元テスト)に取り組み、振り返りシートをまとめる。 ・評価問題の実現状況に応じたコース別学習を行う。	・昭和初期から第二次世界大戦直前までの我が国の政治・外交の動き、欧米諸国の動きについて、社会的事象や因果関係をとらえ、新たな疑問や具体的な関心をもととする。(振り返りシート)	【思考・判断を見取る評価問題】 総合的評価として実施し、実現状況を見取る。	・昭和初期から第二次世界大戦直前までの我が国の政治・外交の動き、欧米諸国の動きに着目させ、経済の混乱と社会問題の発生、軍部の台頭から日中戦争までの経過を理解し、その知識を身に付けている。(評価問題)	・昭和初期から第二次世界大戦直前までの我が国の政治・外交の動き、欧米諸国の動きに着目させ、経済の混乱と社会問題の発生、軍部の台頭から日中戦争までの経過を理解し、その知識を身に付けている。(評価問題)	・昭和初期から第二次世界大戦直前までの我が国の政治・外交の動き、欧米諸国の動きに着目させ、経済の混乱と社会問題の発生、軍部の台頭から日中戦争までの経過を理解し、その知識を身に付けている。(評価問題)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <b>関心・意欲・態度</b>                      昭和初期から第二次世界大戦直前までの我が国の政治・外交の動き、欧米諸国の動きに着目させ、経済の混乱と社会問題の発生、軍部の台頭から日中戦争までの経過を理解し、その知識を身に付けている。(評価問題)                 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <b>思考・判断</b>                      補充学習において、昭和初期から第二次世界大戦直前までの基本的な知識や歴史の流れを図式化して構造的に確認させる。発展学習においては、生徒自身が視点を決めて単元の歴史の流れを図式化する作業を行う。                 </div>

第6章 二度の世界大戦と日本【第二次世界大戦とアジア】の指導と評価計画表

単元の指導目標		単元の評価規準						
		関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解			
(1)第二次世界大戦の原因やあらましについて関心を高めさせ、意欲的に追究させる。 (2)第二次世界大戦の原因やあらましについて我が国の政治・外交の動き、欧米諸国の動きなどから多面的・多角的に考察させ、公正に判断させる。 (3)第二次世界大戦の原因やあらましについて我が国の政治・外交の動き、欧米諸国の動きに関する資料を収集させ、有用な情報を選択・活用させるとともに、課題を追究し考察した過程や結果をまとめさせる。 (4)第二次世界大戦の原因やあらましについて我が国の政治・外交の動き、欧米諸国の動きに着目させ、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解させ、その知識を身に付けさせる。		・第二次世界大戦の原因やあらましについて関心を高め、意欲的に追究している。	・第二次世界大戦の原因やあらましについて我が国の政治・外交の動き、欧米諸国の動きなどから多面的・多角的に考察し公正に判断している。	・第二次世界大戦の原因やあらましについて我が国の政治・外交の動き、欧米諸国の動きに関する資料を収集させ、有用な情報を選択・活用させるとともに、課題を追究し考察した過程や結果をまとめたり、説明したりしている。	・第二次世界大戦の原因やあらましについて我が国の政治・外交の動き、欧米諸国の動きに着目させ、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解し、その知識を身に付けている。			
学習内容	時	学習活動における単元の評価規準				実現状況に応じた指導		
1 第二次世界大戦	1	<b>学習目標・学習活動</b> ・大戦がヨーロッパで起こり拡大していった経緯や日本が三国同盟によりドイツ、イタリアとのつながりを強めていったことを理解する。 ・ファシズムの台頭の経緯を確認する。 ・ヨーロッパ戦線のあらましを調べる。 ・資料からドイツ占領下のユダヤ人への弾圧について読み取り、発表する。 ・日本が三国同盟を結んだ理由をヨーロッパ戦線の様子と結び付けて考える。 ・本時の振り返りを行う。	関心・意欲・態度 ・大戦がヨーロッパで起こり拡大していった経緯や日本が三国同盟によりドイツ、イタリアとのつながりを強めていったことについて関心や疑問をもち、意欲的に調べようとする。	思考・判断 ・ドイツ占領下のユダヤ人に対する弾圧の様子を日記などから読み取っている。	技能・表現 ・大戦がヨーロッパで起こり拡大していった経緯や日本が三国同盟によりドイツ、イタリアとのつながりを強めていったことについて関心や疑問をもち、意欲的に調べようとする。	知識・理解 ・大戦がヨーロッパで起こり拡大していった経緯や日本が三国同盟によりドイツ、イタリアとのつながりを強めていったことを理解し、その知識を身に付けている。(確認テスト)	関心・意欲・態度 ヨーロッパ戦線の経緯やドイツとの結び付きに関する記述に対して価値付けをする。またその後の世界大戦の様子や日本の対戦へのかわりにつなげるコメントを記入する。	
	2	<b>学習活動</b> ・日中戦争の長期化による日本の東南アジア進出、アメリカとの対立から太平洋戦争が始まった原因を理解する。 ・日米の開戦時の国力を比較する。 ・日本の東南アジア進出の理由を既習事項の日中戦争の長期化と結び付けて考える。 ・戦争回避のためのアメリカの要求を考え、発表する。 ・ハルノートの内容について調べ、アメリカの提案を受け入れるべきか自分の考えをまとめ、発表する。 ・太平洋戦争が始まった経緯について自分の考えをまとめる。 ・本時の振り返りを行う。	関心・意欲・態度 ・日中戦争の長期化による日本の東南アジア進出、アメリカとの対立から太平洋戦争が始まった原因について関心や疑問をもち、意欲的に調べようとする。	思考・判断 【因果・関連】 ・太平洋戦争が始まった経緯を日中戦争の長期化や日米の対立のあらましと関連させながら多角的に考察している。(学習プリントの取組状況、学習プリントの記述内容)	技能・表現 ・日中戦争の長期化による日本の東南アジア進出、アメリカとの対立から太平洋戦争が始まった原因を理解し、その知識を身に付けている。(確認テスト)	知識・理解 ・日中戦争の長期化による日本の東南アジア進出、アメリカとの対立から太平洋戦争が始まった原因を理解し、その知識を身に付けている。(確認テスト)	思考・判断 太平洋戦争の開戦の経緯や原因に関する記述に対して価値付けをする。またその後の太平洋戦争の戦況や戦時下の国民生活についての関心につなげるコメントを記入する。	関心・意欲・態度 日中戦争の長期化など基本的な知識の確認をし、アメリカの要求を資料に下線を引かせて整理させる。また、グループの中で出された意見を参考にするように指示する。
3 戦争の終結	2	<b>学習活動</b> ・ドイツ・イタリアの降伏、沖縄戦から原爆投下などをおして戦争終結の経緯を理解するとともに、ポツダム会議から米ソの対立とその影響を理解する。 ・太平洋戦争が始まった経緯を確認する。 ・東南アジアでの戦況や沖縄戦、原爆投下のようすについて調べる。 ・ポツダム会議の経緯について調べ、原爆が投下させた意味や影響について考え、発表する。 ・本時の振り返りを行う。	関心・意欲・態度 ・ドイツ・イタリアの降伏、沖縄戦から原爆投下などをおして戦争終結の経緯について関心や疑問をもち、意欲的に調べようとする。	思考・判断 【因果・関連】 ・アメリカによる原爆投下の目的を当時の戦況やソ連との関係などの国際情勢から考察している。(学習プリントの取組状況、学習プリントの記述内容)	技能・表現 ・ドイツ・イタリアの降伏、沖縄戦から原爆投下などをおして戦争終結の経緯を理解しているとともに、ポツダム会議から米ソの対立とその影響を理解し、その知識を身に付けている。(確認テスト)	知識・理解 ・ドイツ・イタリアの降伏、沖縄戦から原爆投下などをおして戦争終結の経緯を理解しているとともに、ポツダム会議から米ソの対立とその影響を理解し、その知識を身に付けている。(確認テスト)	思考・判断 太平洋戦争の終結までの経緯に関する記述に対して価値付けをする。またその後の日本の行方や米ソの対立についての関心につなげるコメントを記入する。	知識・理解 資料ポツダム会議のようすを示す資料からアメリカのソ連に対する警戒心を読み取らせる。
	1	<b>学習活動</b> ・単元の学習を振り返り、自己の変容や課題、学習内容に対する新たな疑問・発見を理解する。 ・評価問題(単元テスト)に取り組む。 ・振り返りシートをまとめる。	関心・意欲・態度 ・第二次世界大戦の原因やあらましについて、社会的事象や因果関係をとらえ、新たな疑問をもととする。(振り返りシート)	思考・判断 ・第二次世界大戦の原因やあらましについて我が国の政治・外交の動き、欧米諸国の動きなどから多面的・多角的に考察し公正に判断している。(評価問題)	技能・表現 ・第二次世界大戦の原因やあらましについて我が国の政治・外交の動き、欧米諸国の動きに関する資料を収集させ、有用な情報を選択・活用させるとともに、課題を追究し考察した過程や結果をまとめたり、説明したりしている。(評価問題)	知識・理解 ・第二次世界大戦の原因やあらましについて我が国の政治・外交の動き、欧米諸国の動きに着目させ、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解し、その知識を身に付けている。(評価問題)	思考・判断 第二次世界大戦の原因やあらまし、大戦にかかわる社会的事象間の結びつきに関する記述に対する価値付けをする。単元をおしての変容を肯定的にとらえることができるように努力をたたえるコメントを記入する。	知識・理解 補充学習において、第二次世界大戦終結までの基本的な知識や歴史の流れを図式化して構造的に確認させる。発展学習においては、生徒自身が視点を決めて単元の歴史の流れを図式化する作業を行わせる。

【思考・判断を見取る評価問題】  
 総括的評価として実施し、実現状況を見取る。



日本と中国が戦争した時代について知っていること、思いつくことを書いてみよう。

単元末の考え

この振り返りシート見直してみて、思ったことや感じたこと、新たな疑問や発見などについてまとめよう。

単元末の考え

## 【振り返りシート】

第6章 二度の世界大戦と日本  
世界恐慌と日本の中国侵略



2年 組 番 氏名

日本と中国が戦争した時代について知っていること、思いつくことを書いてみよう。

単元初発の考え

月 日( )  
今日の学習で「なるほど!」「そうか!」と思ったことを書こう。

授業後

新たな疑問やもっと調べてみたいことを書こう。

授業後

月 日( )  
今日の学習で「なるほど!」「そうか!」と思ったことを書こう。

授業後

新たな疑問やもっと調べてみたいことを書こう。

授業後

月 日( )  
今日の学習で「なるほど!」「そうか!」と思ったことを書こう。

授業後

新たな疑問やもっと調べてみたいことを書こう。

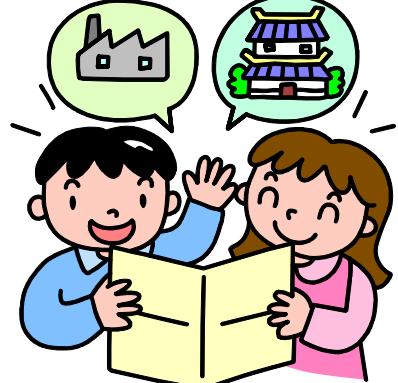
授業後

月 日( )  
今日の学習で「なるほど!」「そうか!」と思ったことを書こう。

授業後

新たな疑問やもっと調べてみたいことを書こう。

授業後



【補充資料3】 「思考・判断」を見取る評価問題の例

2年歴史 教科書 P170~181 平成20年 月 日( ) 番 氏名

第6章 二度の世界大戦と日本 第一次世界大戦とアジア・日本 単元テスト

1 次の各設問に答えなさい。

- (1) 第一次世界大戦の対立を生んだ「ヨーロッパの火薬庫」と呼ばれていた地域はどこですか。右の地図中のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

【知識・理解】

- (2) 第一次世界大戦は1918年、ドイツが降伏し、翌年パリで講和会議が開かれ終結をむかえました。このときに結ばれた条約を何といいますか。

【知識・理解】

- (3) ロシアでは大戦中に革命が起き、皇帝が退位して臨時政府ができました。大戦中にロシアで革命が起きた理由の一つを、資料1を使って説明しなさい。

【思考・判断, 技能・表現】



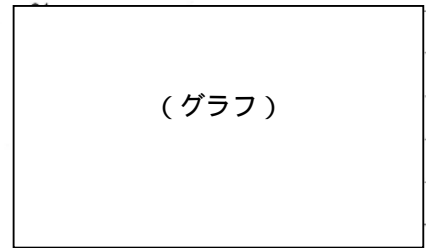
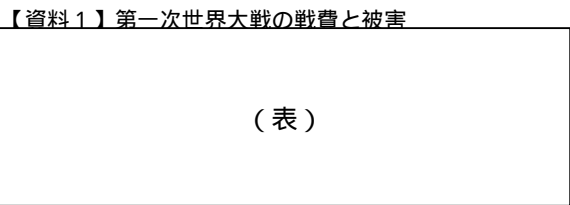
2 次の各設問に答えなさい。

- (1) 資料2における1919年の日本の輸出額は、1915年の約何倍になりますか。整数で答えなさい。

【技能・表現】

- (2) 資料2において、日本の貿易額が急激に伸びていることがわかります。同じ頃、アメリカにおいても経済の成長が見られました。この頃日本とアメリカで経済が成長した理由として考えられることを、地理的な観点から答えなさい。

【思考・判断, 技能・表現】



3 次の各設問に答えなさい。

- (1) 例1・2のようにア～キまでのカードから、自分で3枚以上取り出して、そのまとまりに表題を付けなさい。ただし例に挙げたものは除くこととします。

【思考・判断】

	記号	表題
例1	イ, オ, カ	外国でおきた出来事
例2	ア, ウ, エ, キ	日本でおきた出来事

【カード】

<p><b>ア</b></p> <p>吉野作造は普通選挙によって民意を政治に反映させることなどを主張した。</p>	<p><b>イ</b></p> <p>第一次世界大戦後、新渡戸稲造が事務局次長を務めた国際連盟が誕生した。</p>	<p><b>ウ</b></p> <p>1925年、加藤内閣は、25歳以上の男子に選挙権をあたえる普通選挙法を成立させた。</p>
<p><b>エ</b></p> <p>1912年に桂内閣に対して新聞や知識人らが起こした憲政擁護運動が各地に広がり、桂内閣は退陣した。</p>	<p><b>オ</b></p> <p>1930年、ロンドンでアメリカ、イギリス、日本の補助艦の保有率を定めた。</p>	<p><b>カ</b></p> <p>1928年、パリで米・英・仏・日など15か国が参加し、紛争の解決手段としての戦争を否定する会議が開かれた。</p>
<p><b>キ</b></p> <p>1918年に原敬を総理とする本格的な政党内閣が成立した。</p>		

- (2) 上のカードのうち、イのカードの国際連盟の設立を提案した人物を次から1人選んで書きなさい。

{レーニン ガンディー 孫文 ウィルソン}

【知識・理解】

- (3) 上のカードのうち、ウのカードと同時に成立した共産主義を取りしめる法律を何といいますか。

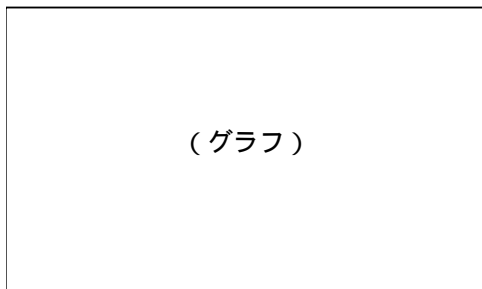
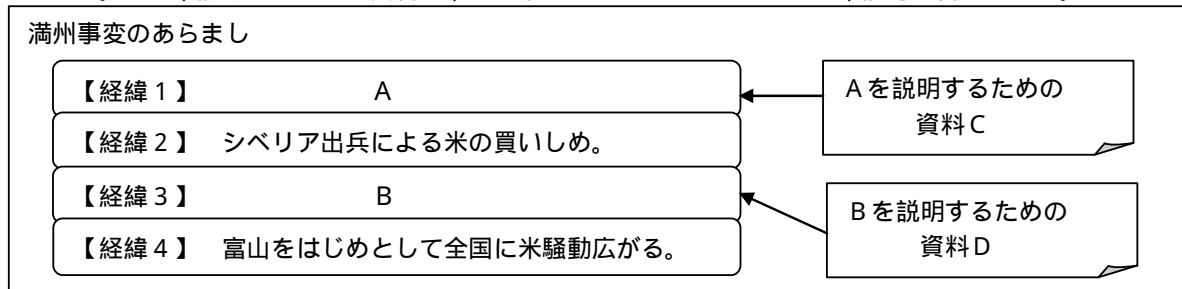
【知識・理解】

4 大正時代の文化や人々の生活のようすとして正しくないものを一つ選び、記号で答えなさい。【知識・理解】

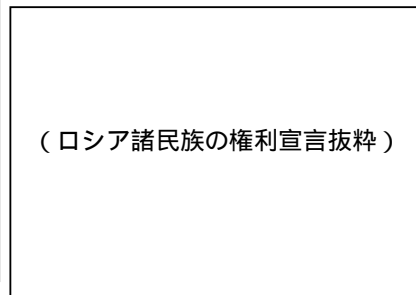
- ア ラジオ放送が始まり、ラジオが急速に全国に普及した。
- イ 東京市内のバスに、女性の車掌が乗るようになった。
- ウ 新橋・横浜間に鉄道が開通し、物資の流通がさかんになった。
- エ 文学の世界では、芥川龍之介らが優れた作品を発表した。

5 一郎さんは米騒動について調べてみようと思いました。次の各設問に答えなさい。

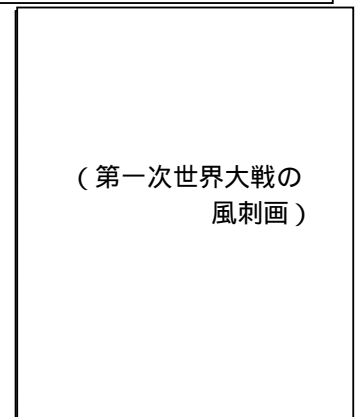
(1) まず、米騒動のあらましを図にまとめようと思いました。次の図を見て、あてはまる説明をA、Bに書きなさい。また、説明するための資料C、Dを下のア～ウから一つずつ選び、記号で答えなさい。【思考・判断】



ア 米価の移りかわり



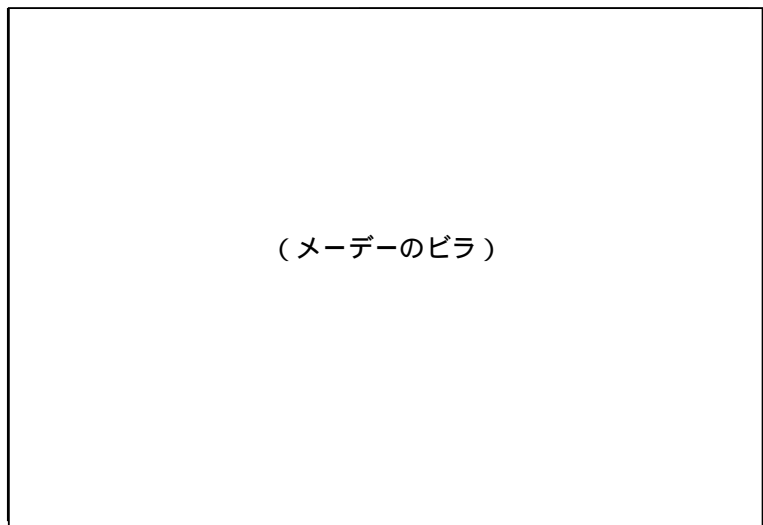
イ ロシア諸民族の権利宣言



ウ 風刺画

【資料3】日本初のメーデー

(2) 当時の新聞記事を調べました。すると、当時、労働争議がさかんに行われるようになっていたことがわかりました。資料3は第1回のメーデーへの参加を呼びかけるピラです。このピラから読み取れる労働者の要求を一つ答えなさい。【技能・表現】



(3) 米騒動では主婦が米屋におしかけたことがわかりました。そこで当時の女性のようすについて調べました。

すると、女性差別からの解放をめざす女性運動がさかんに行われていたことがわかりました。青踏社を結成し、女性の解放を唱えた人物名を書きなさい。

また、現代においてこの当時から比べると女性の社会的な地位が向上したと思われる具体例を一つ書きなさい。【思考・判断】

第6章 二度の世界大戦と日本 **世界恐慌と日本の中国侵略** 単元テスト

- 1 次の各設問に答えなさい。
- (1) 1929年、アメリカで株価が大暴落し、不況の波が世界中に広まりました。この出来事を何といいますか。 【知識・理解】
  - (2) このころドイツでは個人の自由を否定し、全体の目的を最優先する全体主義の考えが広まりました。この考え方を何といいますか。 【知識・理解】
  - (3) ナチスが、ドイツの人々から支持を受けた理由を、資料1を使って説明しなさい。 【思考・判断、技能・表現】

(ナチスの議席数と失業者数の表)

- 2 次の各設問に答えなさい。
- (1) 1934年の小作争議の件数は、1928年の約何倍になりますか。整数で答えなさい。 【技能・表現】
  - (2) 資料2では1930年ごろから小作争議が大きく増加していることが分かります。その理由として考えられることを、資料3を参考にして簡潔に答えなさい。 【思考・判断、技能・表現】

【資料1】



【資料2】小作争議、労働争議数の推移

【資料3】小作農家の収入

- 3 次の各設問に答えなさい。
- (1) 例1・2のようにア～キまでのカードから、自分で3枚以上取り出して、そのまとまりに表題を付けなさい。ただし例に挙げたものは除くこととします。 【思考・判断】

	記号	表題
例1	ア、ウ、エ、キ	外国でおきた出来事
例2	イ、オ、カ	日本でおきた出来事

【カード】

<p><b>ア</b> ヒトラーは1933年に高速自動車道路を建設し始めた。</p>	<p><b>イ</b> 朝鮮では、日本語の使用や姓名の表し方を日本式に改めさせることをおし進めた。</p>	<p><b>ウ</b> 関東軍は、奉天郊外で満州鉄道の線路を爆破し、それを機に軍事行動を開始した。</p>
<p><b>エ</b> ルーズベルトはテネシー川流域に多くのダムを造った。</p>	<p><b>オ</b> 1936年、陸軍の青年将校が、首相官邸や警視庁などを襲撃した。</p>	<p><b>カ</b> (五一五事件を伝える新聞記事)</p>
<p><b>キ</b> イギリスは植民地との間の関税を低くし、他国からの商品には高い関税をかけた。</p>		

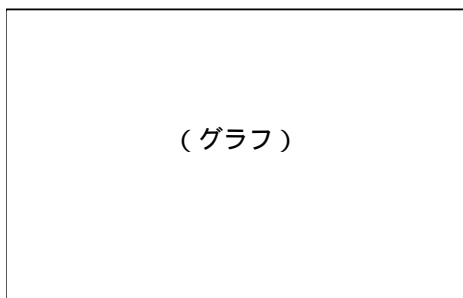
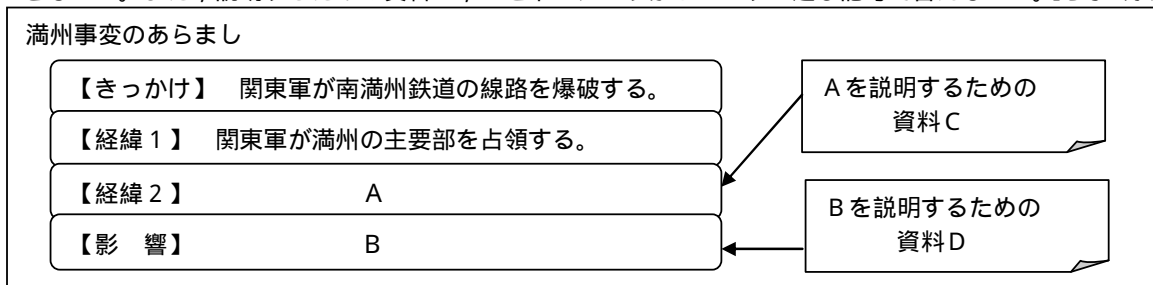
- (2) 上のカードのうち、カのカードの出来事で暗殺された首相を次から1人選んで書きなさい。 【知識・理解】  
〔原敬 犬養毅 浜口雄幸 近衛文麿〕
- (3) 上のカードのうち、キのカードの内容のことを何経済と呼びますか。 【知識・理解】

4 日中戦争開戦後のようすとして正しくないものを一つ選び、記号で答えなさい。 【知識・理解】

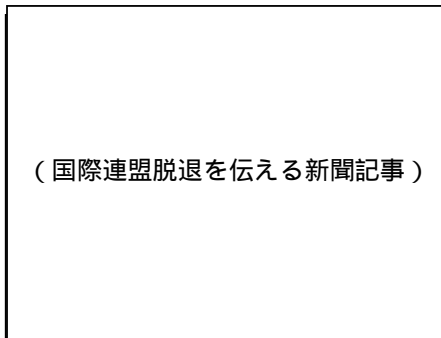
- ア 中国では内戦を続けていた国民党と共産党が提携し、協力して日本に対抗することになった。
- イ 日本政府は国家総動員法を公布し、国の産業・経済から国民生活のすべてにわたって戦争に動員できる権限をもった。
- ウ 日本では軍需品の生産が優先され、生活必需品の砂糖や木炭などは切符制になり、米も配給制になった。
- エ 日本では大政翼賛会が結成され、議会での政党の活動がさかんになった。

5 一郎さんは満州事変について調べてみようと思いました。次の各設問に答えなさい。

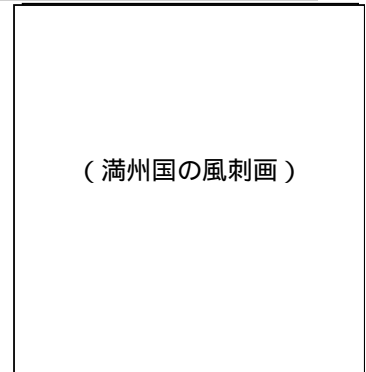
(1) まず、満州事変のあらましを図にまとめようと思いました。次の図を見て、あてはまる説明をA、Bに書きなさい。また、説明するための資料C、Dを下のア～ウから一つずつ選び記号で答えなさい。【思考・判断】



ア 米価の移りかわり



イ 日本の新聞記事



ウ アメリカの新聞の風刺画

(2) 満州事変に関する当時の新聞記事を調べました。すると、(1)でまとめた満州事変のあらましの内容と食い違う内容が見られました。当時の新聞記事が正しく伝えていない部分はどこですか。 【技能・表現】



(3) 当時の新聞には「満州は日本の生命線である」という見出しが多く見られることが分かりました。この「満州は日本の生命線」とはどのようなこと意味しているのか書きなさい。また、この考え方をどう思いますか。根拠を示して書きなさい。 【思考・判断】